
動物っぽい何か。

友達の親戚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

動物っぽい何か。

【Nコード】

N2420S

【作者名】

友達の親戚

【あらすじ】

動物っぽい何かをもったひとが光に飲まれてやんなっちゃう感じ
です。

※原作知識無し。 ※最強じゃない。 ※キャラ崩壊するかも。

ぷろろろ (前書き)

携帯電話って略したらケータイじゃなくて携電。

b yどこぞの弟

ぷろろうぐ

チェーンメールとは、連鎖的に不特定多数への配布をするように求める手紙である。

かつて「不幸の手紙」や「幸福の手紙」と呼ばれたものが典型的な例である。

はず・・・なんだが。

「何故皆、俺にしか送らない」

軽く泣けてきた。

テロン。

あ、また来たよ。

今度は何かな？

・・・あんけーと？

ほむ、欲しいものはありますか・・・ねえ。

「凄い体とヤバめの気とか魔力てきなのと動物っぽい何かがほしい」

『送信』

厨二病な感じだが、そろそろチェーンメールが100件超えそうなのでもうシンDOI。

さっきまでの流れで送っちゃったが無問題。

ケータイ明日買い換える。

そして、今は寝よう。

翌日

機種が多すぎる。

結局、一番安いのに決定。

テロン。

メール来た。

・・・ん？

何故買い換えたばかりで、メールが来るのか。

しかし、紳士な俺は気にしない。

メール開いたらなんか光りだした。

・・・ここはいったい何処だろう。

光に飲まれて目を開けると知らない人が目の前に。

しかも、半裸。

しかし、俺は慌てない。

選択肢をミスれば、ポリスにGETされる。

「おいイ？

初対面なのに半裸見せつけるとか脳外科行った方がいい」

「っ！？ふん！！」

ドゴッ！！

嘘が付けない良い男それが俺。

でも、薄れ行く意識の中で思った。

本音を隠せる良い男になろう・・・

あと、パンチ力が半端なかった。

ぷろろうぐ（後書き）

はじめまして。

友達の親戚です。

凄く短いですね。

そして、文才がありません。

何より誰が読むのか解らない。

そんな後ろむきな私ですが、

よろしければ次も読んでいただけると嬉しく思います。

デワデワ

一 匹目（前書き）

生き様がハイカロリー

b yどこぞのアイドル？

一匹目

目が覚めて最初に見るのが鉄格子とはこれいかに。

・・・鉄格子？

独房ですねわかります。

そして、ポリスにGETされた時点で

俺の人生に終止符。

Orz

でも、ここからの挽回に期待。

「四字熟語にもあったはず『汚名挽回』と」

「それを言うなら『名誉挽回』だよね」

「そうとも言う。」

・・・今の誰？」

「私だよ」

下を向いてて解らなかったが、顔を上げると鉄格子の向こう側にあのときの脱ぎ女が。

「変なこと考えてない？」

「何故ばれたし」

でも大丈夫。

今回は間に鉄格子があるから。

「やっぱり考えてたんだ」

・・・いつの間に中に入ったし。
ウボアアアア。

ラリアットの威力もすごいんですね。

☆ ☆ ☆

再び目を覚ます。

目にうつるは地面、
感じるは摩擦つまり

「痛い、擦ってる擦ってる」

「あ、起きた？」

「起きた？じゃなくて離してください半裸さん」

「ダメだよつと言うか半裸さんて何?!」

「半裸さんは、半裸さん。」

ほら、俺って第一印象を大切にするタイプだから」

「だとしたら君の第一印象は、最悪だよね」

「ハア。半裸さん、

人の善し悪しはそう簡単には図れないんだよ？」

「何で私が悪いみたいになってるの?!」

「迷宮入りだな」

「絶対君のせいなの・・・」

何やら半裸さんが落ち込んでいるが無問題。

それよりも地面とキスしながら喋れた俺パーフェクトウー!!

途中で離してくれたが、

俺のファーストキスが地面なのはかわらにいい。

汚された・・・

そんなことを考えているうちに扉が見えてきて、

「ノックしてもしもし」

ガチャっとおーぷん

部屋の中にいたのは、

「ほむ、珍しいな狸の放し飼い」

「誰が狸や?!」

喋る狸とは、凄すぎる。

いやでも、インコとかも喋るし普通なのか？
迷宮入りだ。

しかし今日だけで二つも迷宮に入ってしまった。
それは良い事なのか、悪い事なのか。
わからない。

そして俺が思考の海に潜ってるうちに、
先程の狸も飼育員が落ち着かせたように

「で、あんたがなのはちゃんの言ってた変態やな？」

「俺、変態ちがう。てか、なのはちゃんって誰？」

「なのはは、私の事なの」

「半裸さんじゃなかったのか」

「あたりまえだよ！」

「まあそんなことより俺の名前を、
俺は山田太郎だよろしく」

一匹目（後書き）

どうも、友達の親戚です。

今回は、2話目なのですが

この時点でしんどい。

私に才能をくれる人を募集しています。

まあ、

才能を貰えたなら完璧超人が

その辺に居るかも・・・

私は、そんな人間じゃないので

へたくそのマンマ。

あと、更新はすぐ遅いです。

それでも、次のお話を読んでくれたら幸いです。

デワデワ。

また、会いましょう。

2 匹目（前書き）

さながら

邪心の如き存在感！！

b y どころのマネージャー

2 匹目

「ないわ」

なにが？

「その見た目で、

その名前は、ないわ」

その見た目って何？

「その、羽？ いや翼のほうがあつとるか」

翼って何だよ。

「翼は翼や

いや、翼っちゅーよりつばさのほうがええかな」

ほむ、直訳すると

『お前、羽が生えてる。マジかけえ！』
ってことか？

しかし俺に羽はない。

つまり、どゆこと？

「ほかに、しっぽとか生えとるし」

さらに、しっぽとか言い出してるし。

究極的に何が言いたいのか、分からない。

「そら、自分につばさとしっぱがあるっちゅー事やろ」

「…………マジ？」

「至急確認をしなければ！」

「おい、鏡的なミラーはどこにある！」

「手鏡ならココにあるで」

「H A ☆ Y A ☆ K U ☆ K A ☆ S E !」

そして、鏡に映っていたのは……

この世の物とは思えない程の……

量の髪の毛がはえた俺でした。

2 匹目（後書き）

どうも。

友達の親戚です。

忙しくてなかなか執筆の時間が取れない。

今回も、焦った結果がこれだよ！

もっと更新速度を上げたい。

ってゆー願望はある。

まあ、それはおいおい考えていくとします。
デワデワ

3 匹目

あ、違う。間違えた。
髪の毛じゃなかった。

「ギザかつこよす」

っべーまじっべー。
かつこよすなく。

・・・まで？

これがあれば、
俺モテモテになるんじゃないかなろうか。
うん。そうにちまいない。

「ちょっと、そこの飼育員さん
俺かつこいいですか？」

「・・・飼育員さん？

呼び方に疑問があるけど、
質問に答えるならかつこいいんじゃないかな。」

かつこいい。
かつこいい。
かつこいい。
かつこいい。
かつこいい。
かつこいい。
かつこいい。

かっこいい。

「なんやこいつ、自分の世界に入りよった」

「仕方ないんじゃないかな、
こんな可愛いフェイトちゃんにかっこいいなんて言われたんだから」

「そ、そんなことないよ」

「ううん、フェイトちゃんは、とっても可愛いよ」

「・・・なのは」

「・・・フェイトちゃん」

「あかん！こっちもや！！
私にどないせえっちゅーねん」

「何を騒いでいるのですか主はやて」

「キタ！シグナムキタ！勝利確定！！」

「・・・テストロッサ模擬戦でもどうだ？」

「露骨にシカト！？」

「模擬戦？うん、いいよ」

「あ、ちょっと待って、

どうせなら太郎君にやってもらおうよ。」

・・・俺？

「それ面白そうやな、

よっしゃシグナムそいつと模擬戦やり」

「まあ、主はやてが言うなら」

「え？何この超展開」

「早く来い！

やると決まったからには、全力でいくぞ！」

俺、死んだかもしれない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2420s/>

動物っぽい何か。

2011年11月24日17時58分発行